

大阪学院大学経済学部（平成20年度前期）

経済入門・期末テスト問題

（注意、テスト形式のみ）

2008年7月23日

鬼木 甫

下記（A）－（D）の4個の設問から2問（各50点計100点満点）あるいは1問（85点満点）を選べ。答案冒頭に、**選んだ設問の個数とその記号**を明記せよ（次ページ以下の「注意」Ⅲ.を参照）。選んだ設問について、設問中の単語をすべて含む「記述」（前後関連を持つ数個の文章から成る短いエッセイ形式の答案）を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を○でかこむこと（ただし○をつけるのは、「記述」中で各単語につき1カ所だけでよい）。

- （A）いろは、にほへと、ちりぬるを、わかよたれそ、つねならむ
- （B）
- （C）
- （D）

加点点について：

これまで受け取った加点点（出席票各1%を含む）は、テスト答案の空白に添付すること。その際、添付には持参の「のり」あるいは「セロテープ」を使い、かつ加点点パーセントの合計を「答案第1ページの左下部」に○で囲んで書いておくこと（故意・過失による計算誤りは、マイナス加点点とするので充分注意されたい）。また上記に反する添付は、受け取らないことがあるので注意されたい。

次ページ以下は、試験当日の問題用紙には記載されていないので注意されたい（本注意の全部を試験当日に持参するとよい）。

注 意

I. 採点規準について：

1. 採点は、「記述内容の正しさ、まとまり、豊富さ、深さ」によって行う。
2. 自身で書き下したオリジナル文章の場合を高く評価する。
3. それぞれの単語を含む文章が前後関連なく並んでいる場合（下記の例(a)）は低く採点し、前後のつながりを明示している場合（下記の例(b)）は高く採点する。

例(a)（低採点）

哺乳類は学習によって生後に情報を取り込むことができる。コンピュータは、ハードウェアにソフトウェアを入れ込んで使用する。

例(b)（高採点）

哺乳類は学習によって生後に情報を取り込むことができる。同様にコンピュータは、ハードウェアにソフトウェアを入れ込んで使用する。つまり哺乳類の学習情報がコンピュータ・ソフトに対応している。

II. 持込・引用について：

1. 持込無制限とする（コンピュータも可、下記 IV. を参照）。
2. 答案中に自他の資料を引用する（書き写す、貼付ける）ことは差支えないが、1回の引用が1行分を超える際には、下記(a) (b)にしたがって引用元を明らかにすること。1行を超える無断引用があった場合、引用元の如何を問わず、答案無効となることがあるので注意すること。
 - (a) ノート、教科書（テキスト）、教室配付資料、WWW入手・配付資料（本講義教材として指定の分）の場合、引用部分の前後に []（角カッコ）をつけて囲むだけでよい。
 - (b) 上記以外の資料からの引用の場合、引用部分をその前後に < >（不等号カッコ）をつけて囲み、引用元（著者名、書物・雑誌等名、発行者、刊行年月日、引用ページ番号など）を明記すること。つまり、引用全体を <引用内容、（著者名、書物名等、・・・、引用ページ番号）> の形にする。

III. 2問・1問選択の場合の採点法と解答用紙の形式について：

1. 下記は、2問・1問選択の各場合の解答用紙の形式を示す。

(1) 2問選択の場合 (100点満点)

(2) 1問選択の場合 (85点満点)

2問選択：(A)と(C)

(A)
.
.(答案エッセイ).
.。

(C)
.
.(答案エッセイ).
.
.。

(%)

1問選択：(A)

(A)
.
.
.(答案エッセイ).
.
.
.。

(%)

2. 上記形式に反した答案の採点法

- (a) 1問選択、2問選択を指定していない場合、実際の記述にしたがってそのいずれであるかを定める。
- (b) 2問選択と指定したのに1問だけにしか答えていない場合、50点満点で採点するので注意すること。
- (c) 2問選択と指定したのに、あるいは指定なしで3問以上に答えている場合、第1番目と第2番目を100点満点で採点し、第3番目以降の答は無視する。
- (d) 1問選択と指定して2問あるいはそれ以上に答えている場合、第1番目の答を85点満点で採点し、第2番目とそれ以降の答は無視する。

IV. 磁気フロッピーによるテスト答案の提出について

試験場にコンピュータ（ノート・パソコンなど）を持ち込み、答案作成のために参照・使用することは差支えない。ただし、コンピュータを使う発信は禁止する。また、騒音の大きいものは避けること（騒音のため、座席の移動を命じることがある）。

答案（の一部）を、コンピュータで作成したフロッピーによって提出してもよいが、この場合は下記に留意すること。

1. 答案の全部をフロッピーで提出するときは、答案用紙上に1問・2問選択の指定と、指定した問題の記号（A、Bなど）のみを書き、これに加えて「別添フロッピー参照」と書いておくこと。
2. 答案の一部のみをフロッピーで提出するときは、答案用紙上に「以下別添フロッピー参照」の語句と参照番号（A1、B2など）を書き、フロッピー内文書の該当答案部分の冒頭に答案用紙に書いたものと同じ参照番号を書き込むこと。つまり、フロッピー内容のどの部分が答案用紙上のどの部分に対応するかを明らかにしておくこと。同対応が不明の場合、未採点に終ることがあるので注意すること。
3. フロッピー内の答案（の一部）は、すべて1個のファイルにまとめて書きこむこと。2個以上のファイルに分けて書いた場合は、一部が未採点に終ることがあるので注意すること。またフロッピー内には、答案（の一部）以外のファイルを残しておくこと（つまりフロッピー内には答案用ファイル1個のみを入れておくこと）。
4. フロッピー形式による答案（引用を含む）の長さの合計は、最大限10,000字（A4用紙で40字×25行×10枚）程度までとすること。
5. フロッピー規格は、IBM型PC(DOS/V形式)のWindows用3.5インチ1.4MBのもの（通常最も多く使われている規格、本学内のコンピュータでもこの規格を使用している）に限る。また、フロッピー内のファイル形式は、テキスト（メモ帳など、txt）、MSワード（doc）、一太郎（jtd）、アドビ・リーダー（pdf）のいずれかに限る。
6. フロッピーにはラベルを貼り、これに「経済入門答案」に加え、学籍番号と氏名を記入し、答案とは別に監督者に提出すること。

大阪学院大学経済学部（平成20年度前期）

「経済入門」 期末テスト問題

2008年 7月23日

鬼木 甫

下記（A）－（E）の5個の設問から**2問**（各50点計100点満点）あるいは**1問**（85点満点）を選べ。答案冒頭に、**選んだ設問の個数とその記号**を明記せよ。選んだ設問について、設問中の単語をすべて含む「記述」（前後関連を持つ数個の文章から成る短いエッセイ形式の答案）を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を○でかこむこと（ただし○をつけるのは、「記述」中で各単語につき1カ所だけでよい）。

- （A）株主、経営者、配当、有限責任
- （B）賃金（給料）、レイオフ（一時帰休）、終身雇用、非正規社員
- （C）当座預金、振出人、裏書、不渡り
- （D）金融機関、担保、ブローカー、利回り
- （E）政府・地方自治体、租税、（政府）権力、規制

加點票について：

これまで受け取った加點票（出席票各1%を含む）は、テスト答案の空白に添付すること。その際、添付には持参の「のり」あるいは「セロテープ」を使い、かつ加點パーセントの合計を「答案第1ページの左下部」に○で囲んで書いておくこと（故意・過失による計算誤りは、マイナス加點とするので充分注意されたい）。また上記に反する添付は、受け取らないことがあるので注意されたい。

大阪学院大学経済学部（平成20年度前期）

「経済入門」追試・再試問題

鬼木 甫

下記（A）－（E）の5個の設問から2問（各50点計100点満点）あるいは1問（85点満点）を選べ。答案冒頭に、選んだ設問の個数とその記号を明記せよ。選んだ設問について、設問中の単語をすべて含む「記述」（前後関連を持つ数個の文章から成る短いエッセイ形式の答案）を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を○でかこむこと（ただし○をつけるのは、答案中で各単語につき1カ所だけでよい）。

- （A）株主、経営者、配当、有限責任
- （B）賃金（給料）、レイオフ（一時帰休）、終身雇用、非正規社員
- （C）当座預金、振出人、裏書、不渡り
- （D）金融機関、担保、ブローカー、利回り
- （E）政府・地方自治体、租税、（政府）権力、規制

大阪学院大学経済学部（平成20年度前期）

経済入門・中間テスト問題

2008年 5月28日

鬼木 甫

下記（A）、（B）の2個の設問から1問を選び、その中の単語をすべて含む数行程度の「記述（複数の短文）」を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を○でかこむこと（ただし○をつけるのは、「記述」中で各単語につき1カ所だけでよい）。

（A） 契約の自由、売買、代金、手付金

（B） 株主総会、損益計算書（P/L）、配当、内部留保

大阪学院大学経済学部（平成20年度前期）

経済入門・中間テスト問題（解答例）

2008年 5月28日

鬼木 甫

下記（A）、（B）の2個の設問から1問を選び、その中の単語をすべて含む数行程度の「記述（複数の短文）」を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を○でかこむこと（ただし○をつけるのは、「記述」中で各単語につき1カ所だけでよい）。

（A） 契約の自由、売買、代金、手付金

契約とは、他人との約束によって売買をおこなうことであり、誰でも自分の判断で自由に契約を結ぶことができる（契約の自由）。契約を結んだ場合はこれを守る義務がある。たとえばマンションなど不動産の売買では、買手が売手に対して一定額の手付金を契約時に支払うことが多い。この場合、買手が契約を実行しなければ手付金は没収される。他方売手が契約を実行しなければ、手付金を返還し、これと同じ金額を買手に支払わなければならない。契約どおりに売買が実行されたとき、手付金は代金の一部にあてられる。

（B） 株主総会、損益計算書（P/L）、配当、内部留保

株式会社では、事業の結果を株主に対して報告することになっている。報告は通常年1回開かれる株主総会でおこなわれる。そのために貸借対照表（B/S）、損益計算書（P/L）が使用される。PLで計算された（当期）利益は、株主総会の決定によって配当と内部留保に分けられる。配当は株主に配られる利益の分け前であり、内部留保は会社に留められる利益である。内部留保は会社のNVを増加させるので、株価の上昇につながることが多い。

大阪学院大学経済学部（平成20年度前期）

経済入門・中間テスト問題（欠席者レポート）

2008年 6月 20日 期限

鬼木 甫

下記（A）、（B）の2個の設問のそれぞれについて、その中の単語をすべて含む数行程度の「記述（複数の短文）」を作れ。作成した「記述」中で、設問で指定された単語を○でかこむこと（ただし○をつけるのは、「記述」中で各単語につき1カ所だけでよい）。

（A） 家計、損益計算書（P/L）、負債、純資産（N/V）

（B） 株式会社、非営利法人、任意団体

大阪学院大学経済学部（平成20年度前期）

経済入門・レポート課題（期末成績の10%）

鬼木 甫

2008年 6月18日（水）

期限： 同 7月11日（金）

- I. 自分あるいはその家計（世帯）について下記 A, B のうちどちらか1個を選び、1ヶ月分の「経済状態」の概略を3行以内で説明せよ。
 - A. 現在の生活： 2008年6月1日～6月30日
 - B. 将来において期待する生活： 20XX年Y月1日～Y月末

- II. 上記で説明した「経済状態」を表わすBSとPLを作成せよ。
 - A. 月初のBS
 - B. 月初から月末までのPL
 - C. 月末のBS

- III. 注意
 1. 経済状態やBS/PLの内容は、自分で考えた仮説的（空想的）内容でよい。とりわけ現在の状態をそのまま正直に書き記すのは、プライバシーをさらけ出すことにもなるので注意。
 2. BS, PLの項目数は、それぞれにつき、左右合計して6個～15個程度にすること。
 3. IIのBとCについて、その続き方に注意すること。つまり1ヶ月間のPLによって、月末のBSがどのように変わったかに注意すること。（配布教材 IA. 2dを参照）
 4. 配付教材あるいは資料をそのまま写したようなレポートは大きく減点するので注意すること。